

ようしょく **ビワマスの養殖**

さめがい ようそんじょう **醒井養鱒場**

ビワマスは、野性的で警戒心が強く養殖が不可能といわれていたんだよ。

醒井養鱒場は明治11年(1878年)に琵琶湖の固有種ビワマスの増殖を目的に設立された。ビワマスをはじめとするマス類の養鱒事業を今日まで一度も途切れることなく続けている日本最古の養鱒場。



所在地：滋賀県米原市上丹

さいらん **採卵**

(採卵の様子)



ビワマスの採卵は10月～11月に行われる。

養殖では、2年でほとんどが成熟する。親魚の全長約40cm 1匹から1000粒程度の卵が産み出される。

醒井養鱒場では、10月～11月にかけて約1400匹の親魚から140万粒の採卵を計画している。

(自然界の産卵期も10月～11月。この間は禁漁期になっている。)



ビワマスの卵は直径6mmほどの大きさで、びわ湖の魚のなかでは最も大きな卵を産むんだって。

はつがんらん **発眼卵**

(採卵場) (受精の様子)
(目がみえてきた卵の様子)

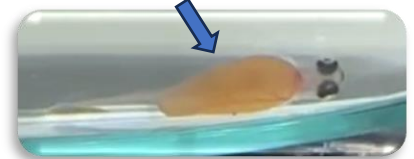


か **ふ化**

(ふ化後の様子)



(卵のう)



卵のうには、栄養成分がつまっているんだ。

受精後は15日間程で、目が卵の外から見えるようになる。

水温12℃の湧水で受精後27～28日間でふ化する。ふ化した仔魚は腹に大きな卵のうを持っている。

仔魚は、卵のう内の栄養を次第に吸収して、体は黒くなって水中を活発に泳いだり、水面に浮かんだりするようになる。仔魚:赤ちゃんの魚

ちぎよ **稚魚**

約5万匹のビワマスの稚魚を飼育しているんだよ。

(ふ化場)



ふ化後1～2か月で、体重0.5～1.0gくらいになる。魚粉を主成分とした人口配合飼料の粉餌を1日4～5回与え「餌付け」する。

(粉餌)



(稚魚)

【資料提供：醒井養鱒場】